

2020年8月4日発送 184名 (2019年3月卒業生)

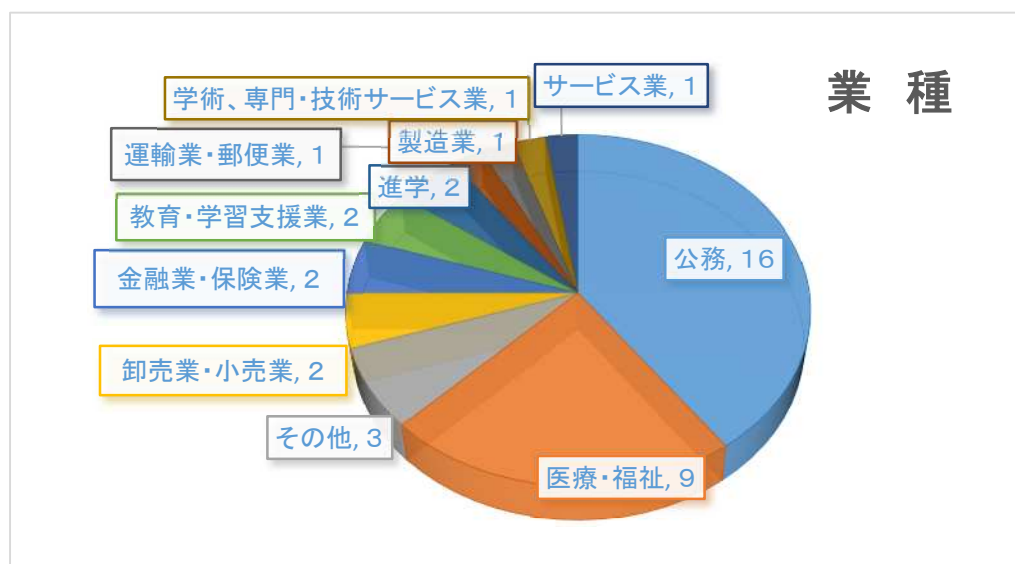
2020年9月11日締切

(人数)

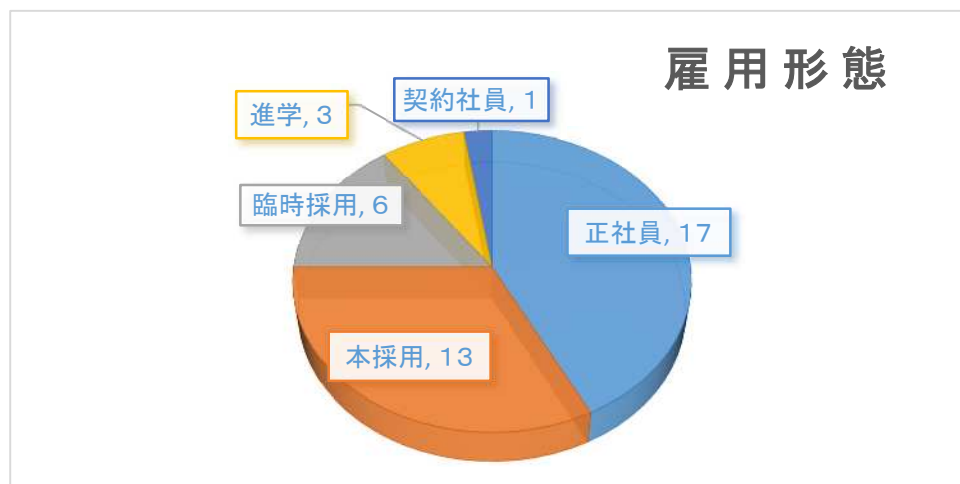
	発送数	宛先不明	回答数	男性	女性	回答率
CE 専攻	38	6	5	2	3	15.6%
保育コース	31	0	4	0	4	12.9%
児童教育コース	14	2	4	1	3	33.3%
心理臨床学科	101	3	27	6	21	27.6%
計	184	11	40	9	31	23.1%

有効配達 173 先に対し回答件数 40 件 回答率 23.1% (参考：2019年度 21.5%、熊本大学 13.0%)

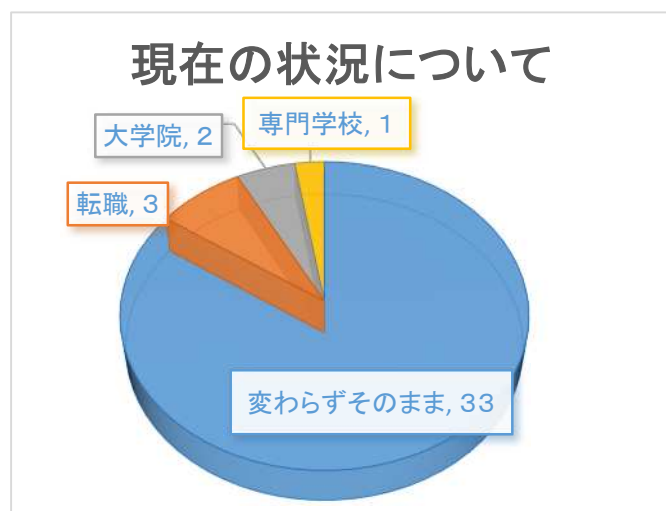
Q2-① 勤務先、進学先



Q2-② 雇用形態



Q2-③ 退職、転職等



①33名：退職していない (91.7%)

②3名：転職した (8.3%)

合計 39 名 (うち 3 名は現在も大学院、専門学校)

* 未回答の卒業生 1 名

心理臨床学科 男性

* 転職した卒業生 3 名

こども専攻保育コース 女性

こども専攻児童教育コース 女性

心理臨床学科 女性

* 転職した理由

別のやりたい仕事が見つかった、

仕事内容、会社の将来性、職場の雰囲気

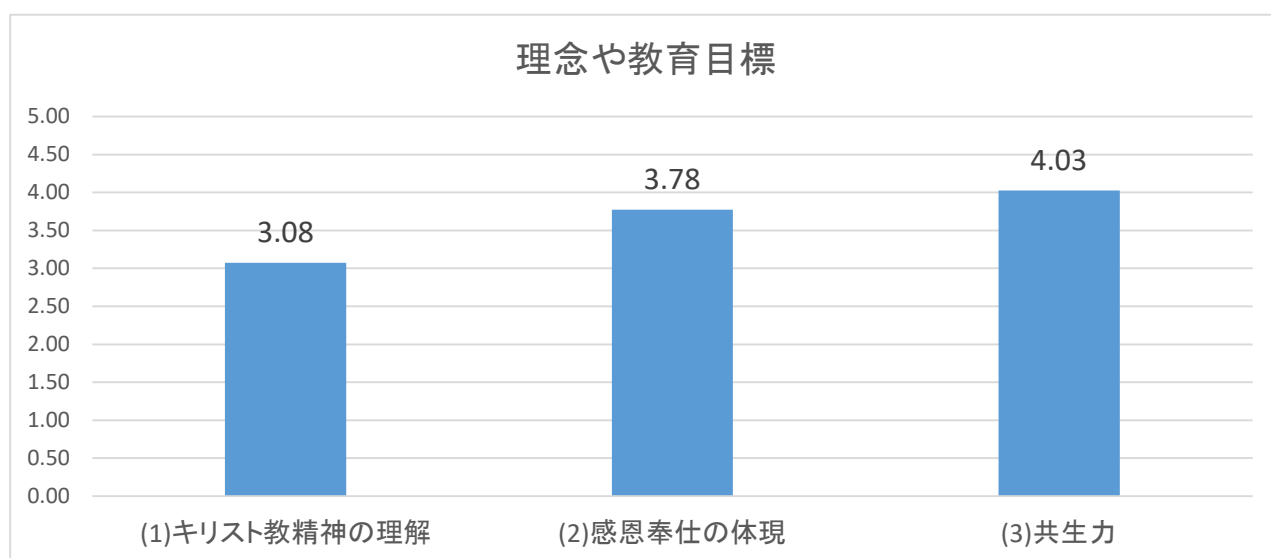
休暇を含む福利厚生。

Q3 在籍時の学習成果がどのくらい身につけているか

- 5 身に付いている 4 概ね身に付いている 3 少しは身に付いている
2 あまり身に付いていない 1 身に付いていない

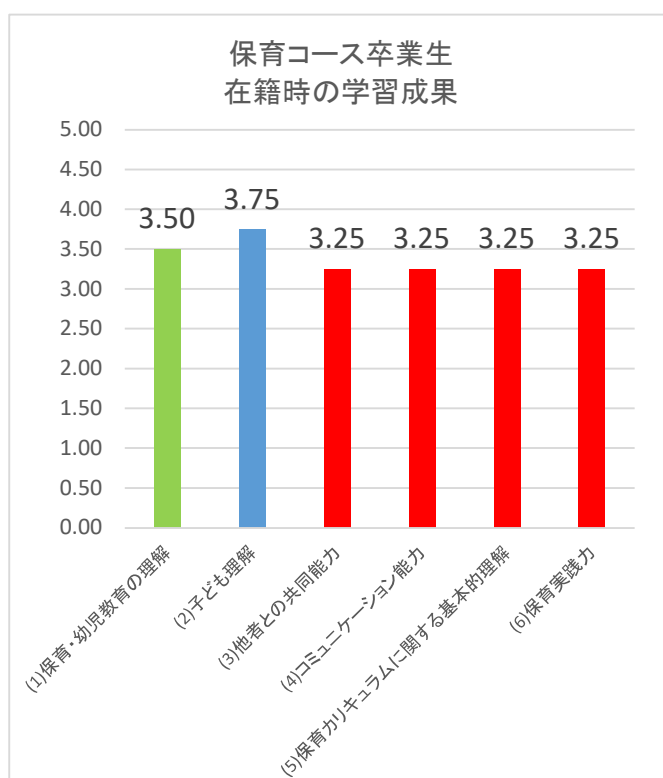
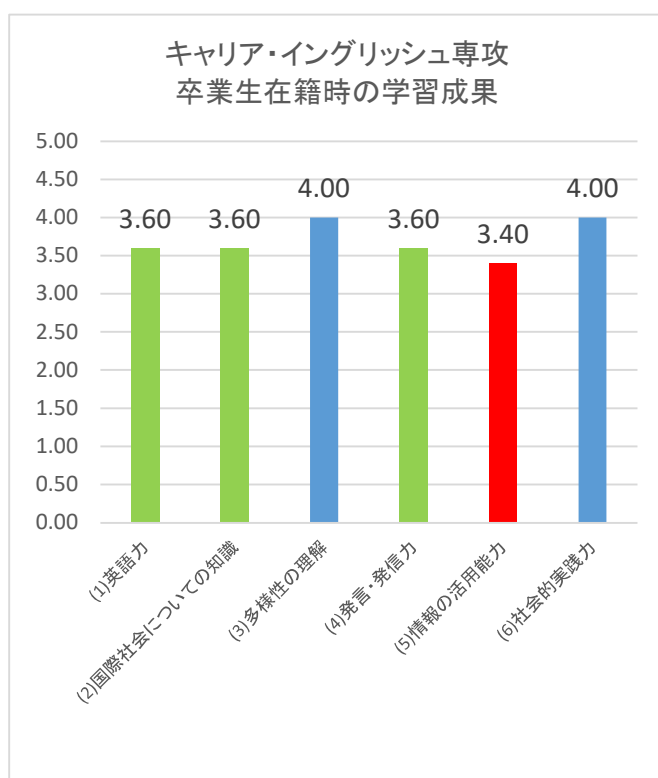
①本学の理念や教育目標について (全員記入のこと)

	項目	内容	平均回答
(1)	キリスト教精神の理解	キリスト教精神やそれに基づく感恩奉仕の精神を理解している	3.08
(2)	感恩奉仕の体現	ボランティア精神と倫理観を持ち、社会で自分の役割を果たしている	3.78
(3)	共生力	社会の動向に関心を持ち、また異なる文化や他者を理解し、その社会・文化の中で他者とともに協同することができる	4.03



②キャリア・イングリッシュ専攻卒業生への質問（回答5名）（赤字；下位点数、青字；上位点数）

(1)	英語力	伝達媒体として英語の技能（読む、書く、聞く、話す）が向上している 英語の専門知識が身に付いている	3.60
(2)	国際社会についての知識	国際人となるための知識、世界情勢、グローバル・ビジネスに関する 知識が身に付いている	3.60
(3)	多様性の理解	日本を含む国際社会の多様なあり方・考え方を柔軟に捉えることができる	4.00
(4)	発言・発信力	修得した知識、自分の意見を言語化・具現化して表現できる	3.60
(5)	情報の活用能力	ITスキルを修得し、その知識・技術によって情報分析や情報発信に活用できる	3.40
(6)	社会的実践力	修得した知識・技能を実習や体験の場で活かすことができる	4.00

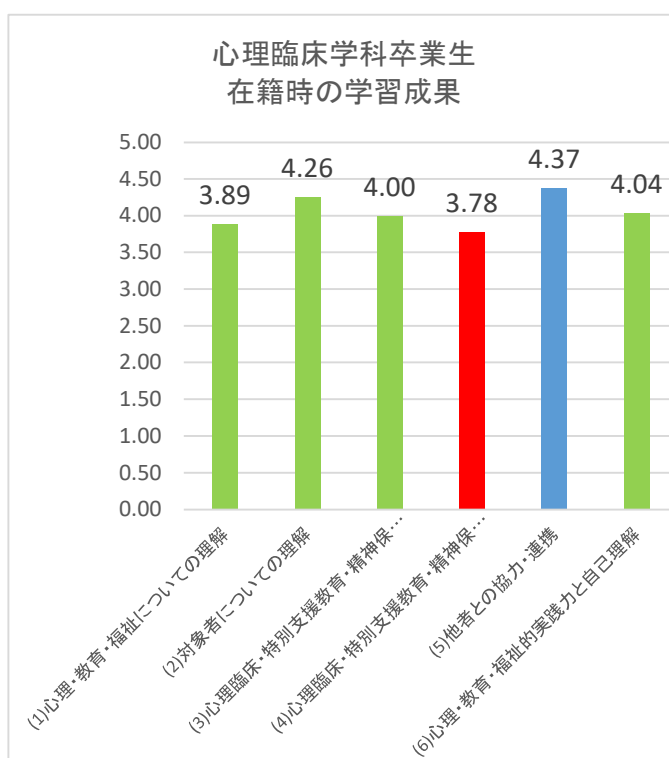
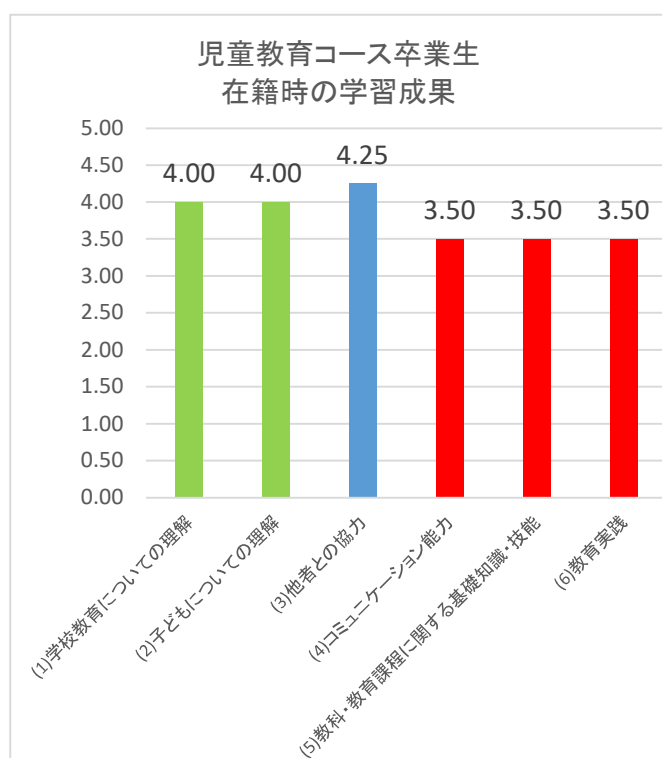


③保育コース卒業生への質問（回答4名）（赤字；下位点数、青字；上位点数）

(1)	保育・幼児教育の理解	保育・幼児教育の意義、原理、理念、倫理観、法規、社会的役割に関する理解	3.50
(2)	子ども理解	保育心理学、発達心理学、保育・福祉、子育て支援に関する理解	3.75
(3)	他者との共同能力	グループワークの基本理解、保育現場における集団の理解、地域との連携に関する 基礎能力	3.25
(4)	コミュニケーション能力	保育現場における受容的態度、専門職としての対話能力、保育指導能力	3.25
(5)	保育カリキュラムに関する 基本的理解	保育カリキュラム、保育方法、情報機器の活用、保育指針・教育要領の基本的理解	3.25
(6)	保育実践力	PDCAサイクルを活かした保育計画立案と実践、クラス経営、子育て支援・家族支援の 実践力	3.25

④児童教育コース卒業生への質問（回答 4 名）（赤字；下位点数、青字；上位点数）

(1)	学校教育についての理解	教職の意義・理念・法規・教育史・社会的役割・地域の特色に関する理解	4.00
(2)	子どもについての理解	教育心理・教育原理・発達論・学習集団の形成・対応力に関する理解	4.00
(3)	他者との協力	他者意見の受容・保護者地域との連携協力・共同授業・役割遂行に関する理解	4.25
(4)	コミュニケーション能力	子どもに対する態度・公平・受容的態度・社会人としての基本・集団理解及び指導力	3.50
(5)	教科・教育課程に関する基礎知識・技能	各教科に関する基礎理論・知識・実践力・情報機器の活用・学習指導要領の理解	3.50
(6)	教育実践	教材分析能力・授業創造力・教材開発力・授業展開力・学級経営力に関する理解	3.50



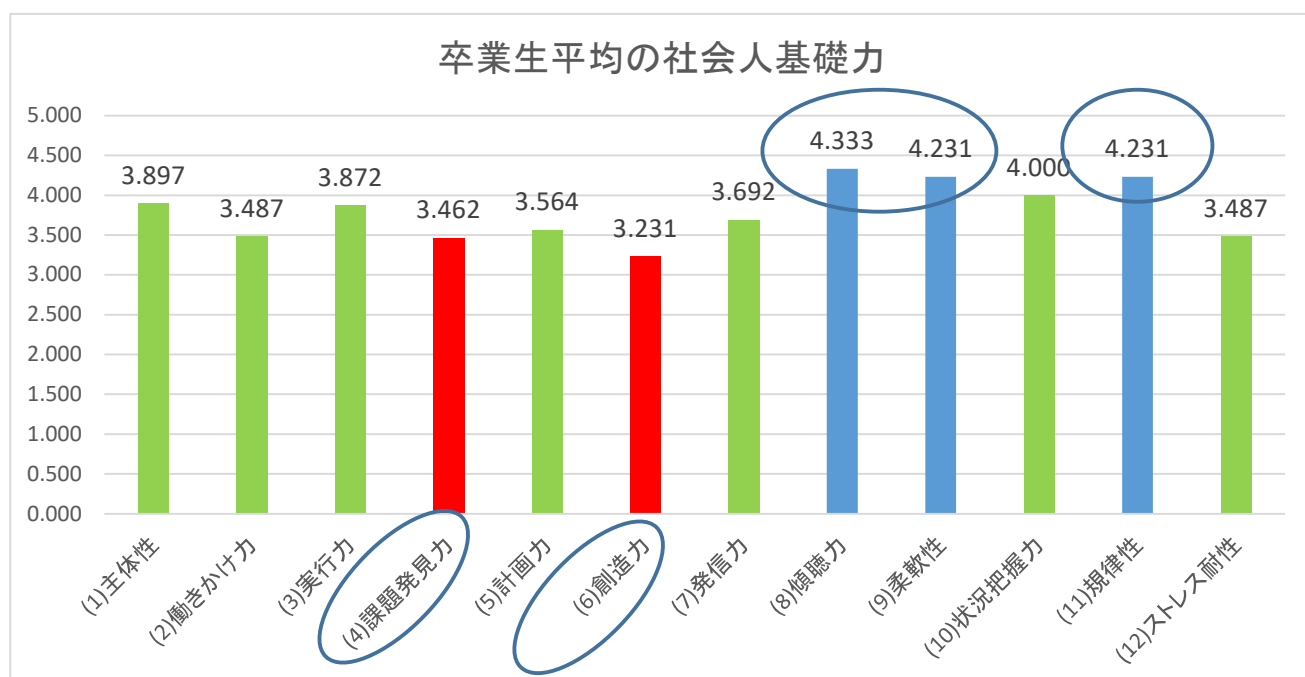
⑤心理臨床学科卒業生への質問（回答 27 名）（赤字；下位点数、青字；上位点数）

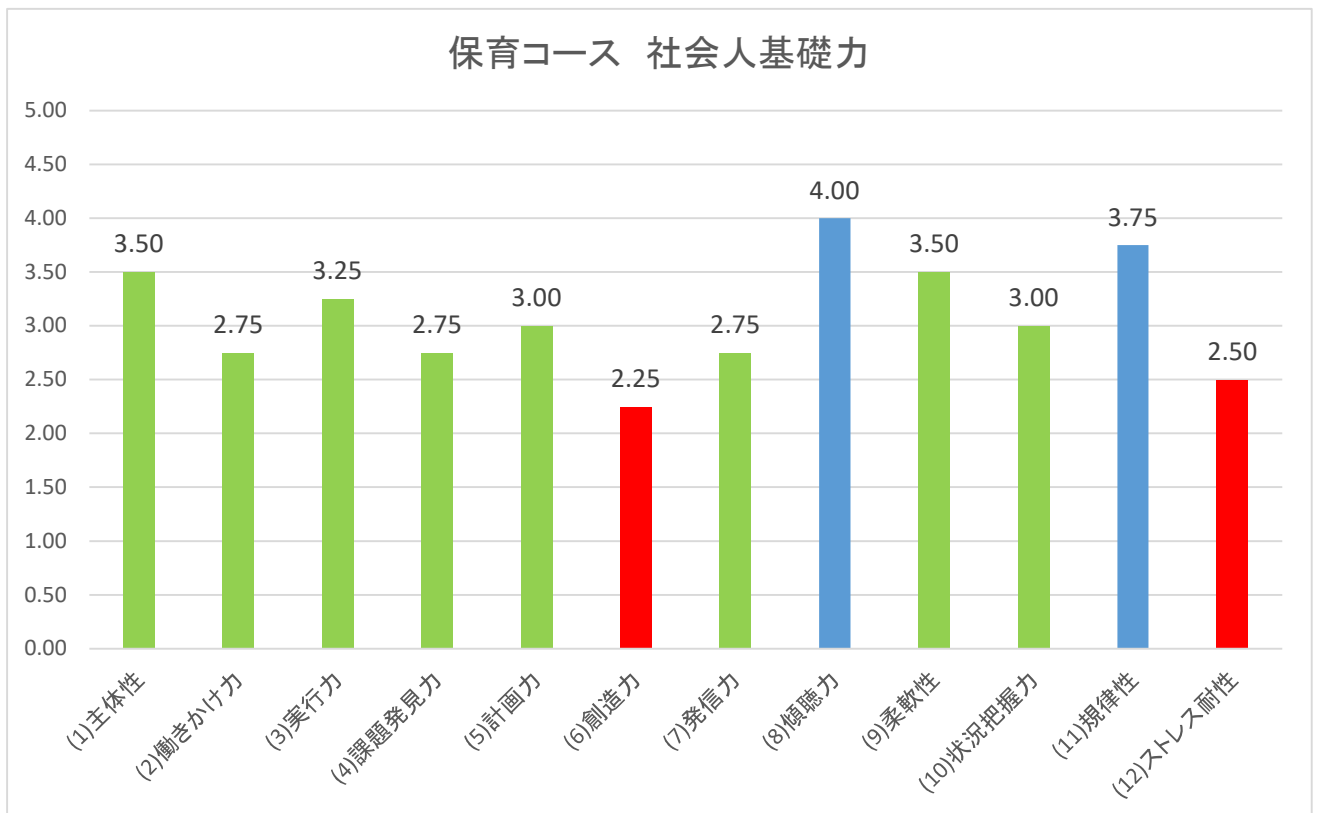
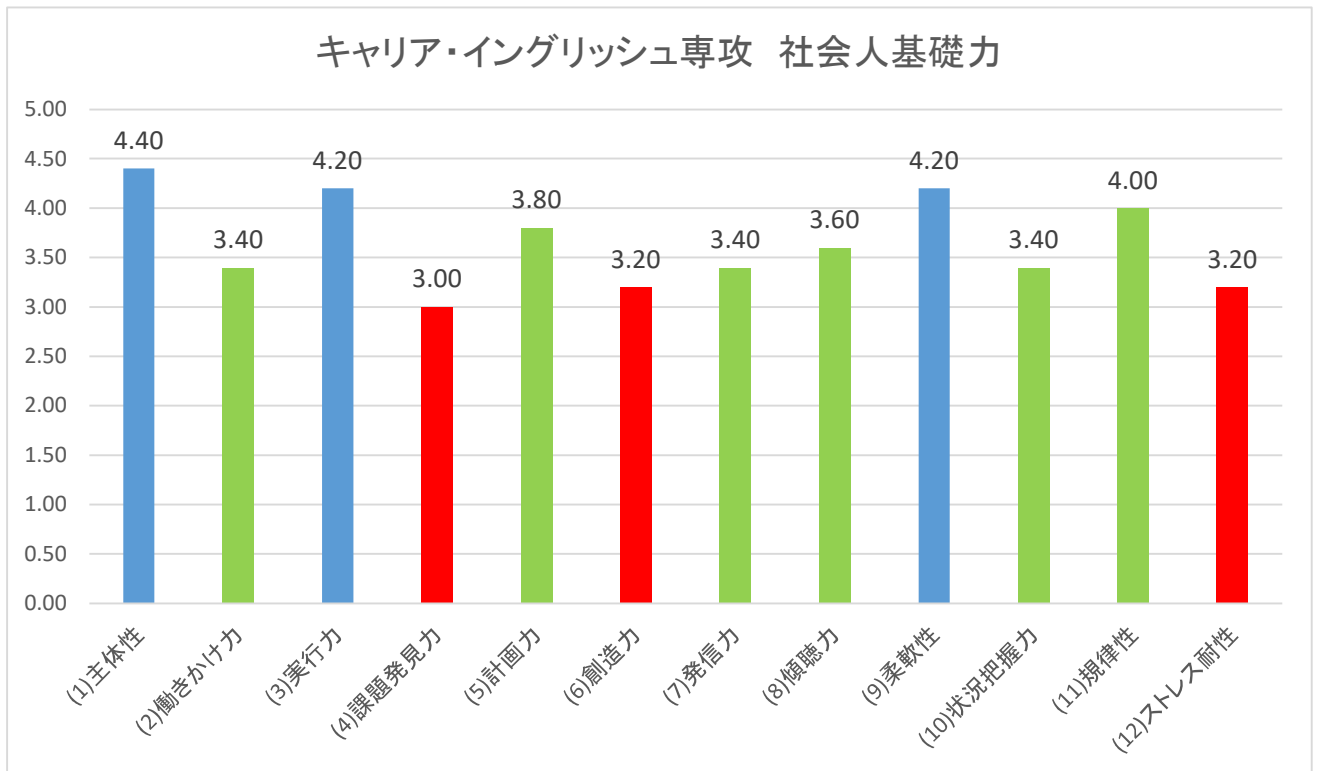
(1)	心理・教育・福祉についての理解	社会、思想・哲学、人権、ジェンダー、生命・医学などの幅広い視点で心理・教育・福祉を理解している	3.89
(2)	対象者についての理解	人間の発達的特徴や家族関係、障害児・者の特性、心の問題や精神疾患の特徴を理解している	4.26
(3)	心理臨床・特別支援教育・精神保健福祉に関する専門知識	心理職、特別支援学校、精神保健福祉士といった職種及び研究に必要な理論・思想が身に付いている	4.00
(4)	心理臨床・特別支援教育・精神保健福祉に関する専門スキル	心理職、特別支援学校、精神保健福祉士のいずれかに必要な査定・教育・援助・研究の技法や情報処理技能が身に付いている	3.78
(5)	他者との協力・連携	適切な感情・態度で他者やその立場を受容し、適切なマナーやルールのもとで他者と協力・協働できる	4.37
(6)	心理・教育・福祉の実践力と自己理解	自己および社会・現場を理解し、心理職、特別支援学校、精神保健福祉士のいずれかに関わる知識・スキルを活かした実践ができる	4.04

Q4-1 社会人基礎力を現在どの程度身に付けているか

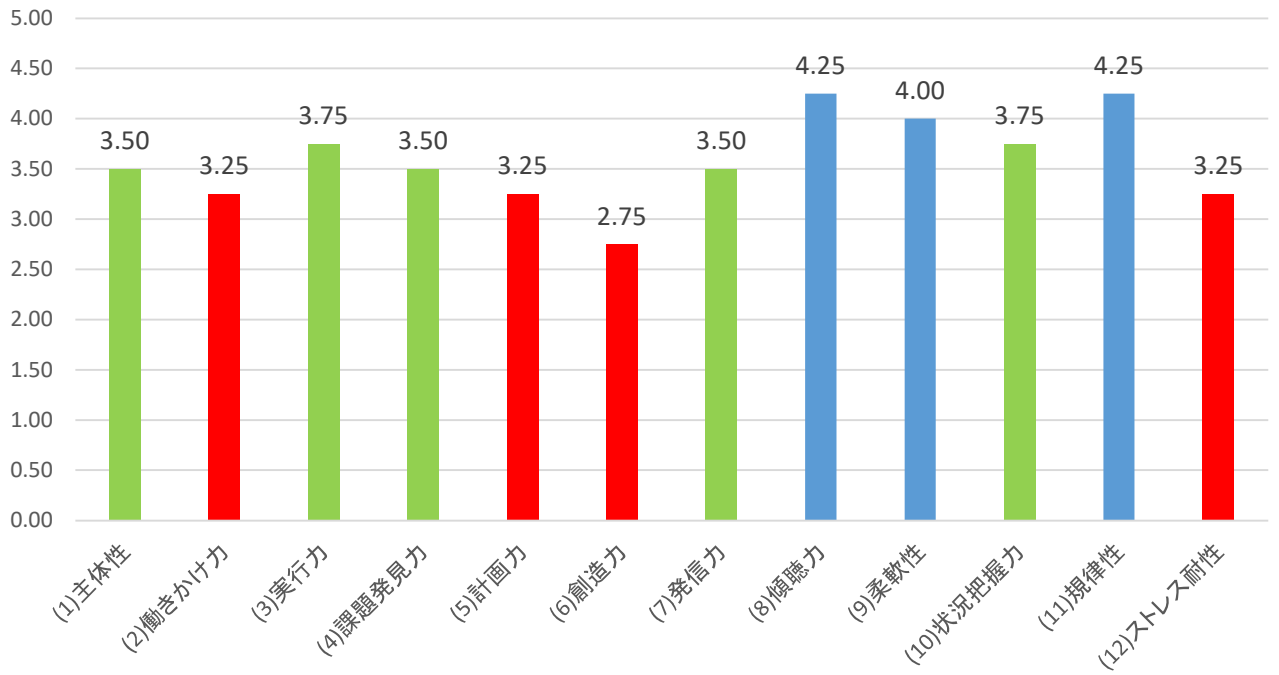
(赤字；下位点数、青字；上位点数)

12の能力	内容	CE	保育	児童	心理	平均
(1) 主体性	物事に進んで取り込む力	4.40	3.50	3.50	3.92	3.897
(2) 働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	3.40	2.75	3.25	3.65	3.487
(3) 実行力	目的を設定して確実に行動する力	4.20	3.25	3.75	3.92	3.872
(4) 課題発見力	現状を分析し目的や課題を見出す力	3.00	2.75	3.50	3.65	3.462
(5) 計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにする力	3.80	3.00	3.25	3.65	3.564
(6) 創造力	新しい価値を生み出す力	3.20	2.25	2.75	3.46	3.231
(7) 発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	3.40	2.75	3.50	3.92	3.692
(8) 傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	3.60	4.00	4.25	4.54	4.333
(9) 柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	4.20	3.50	4.00	4.38	4.231
(10) 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	3.40	3.00	3.75	4.31	4.000
(11) 規律性	社会のルールや人との約束を守る力	4.00	3.75	4.25	4.35	4.231
(12) ストレス耐性	ストレスの発生源に対応する力	3.20	2.50	3.25	3.73	3.487

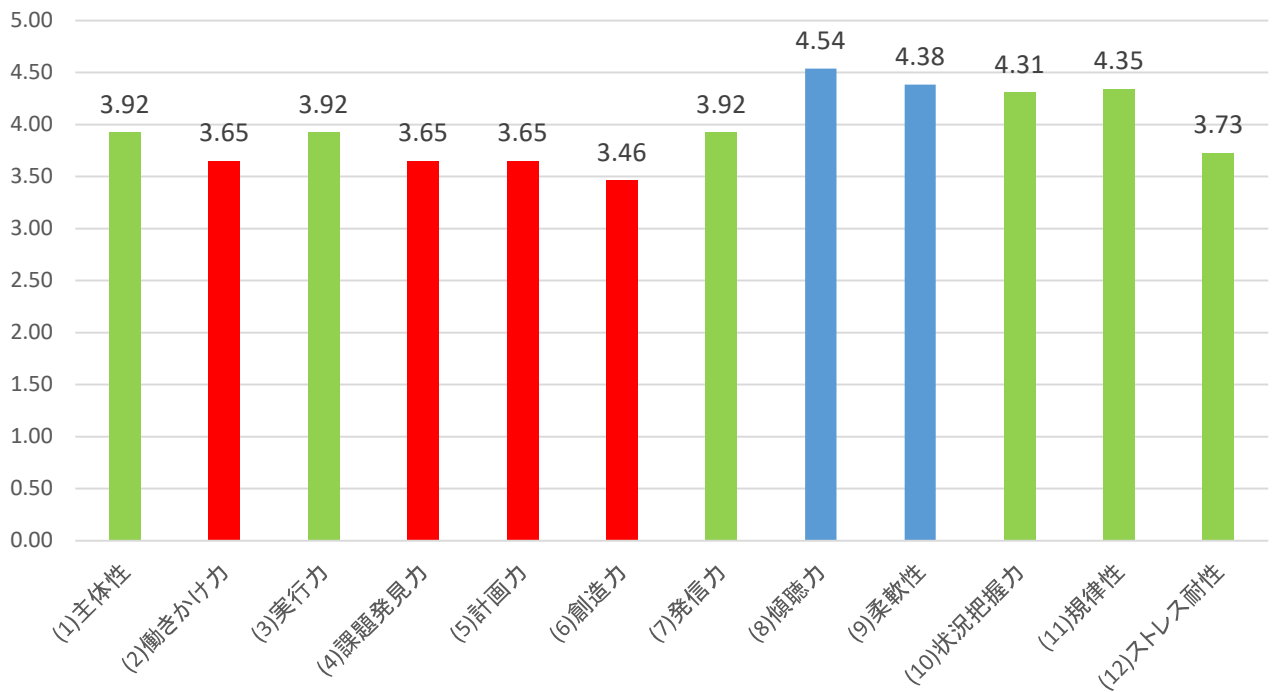




児童教育コース 社会人基礎力



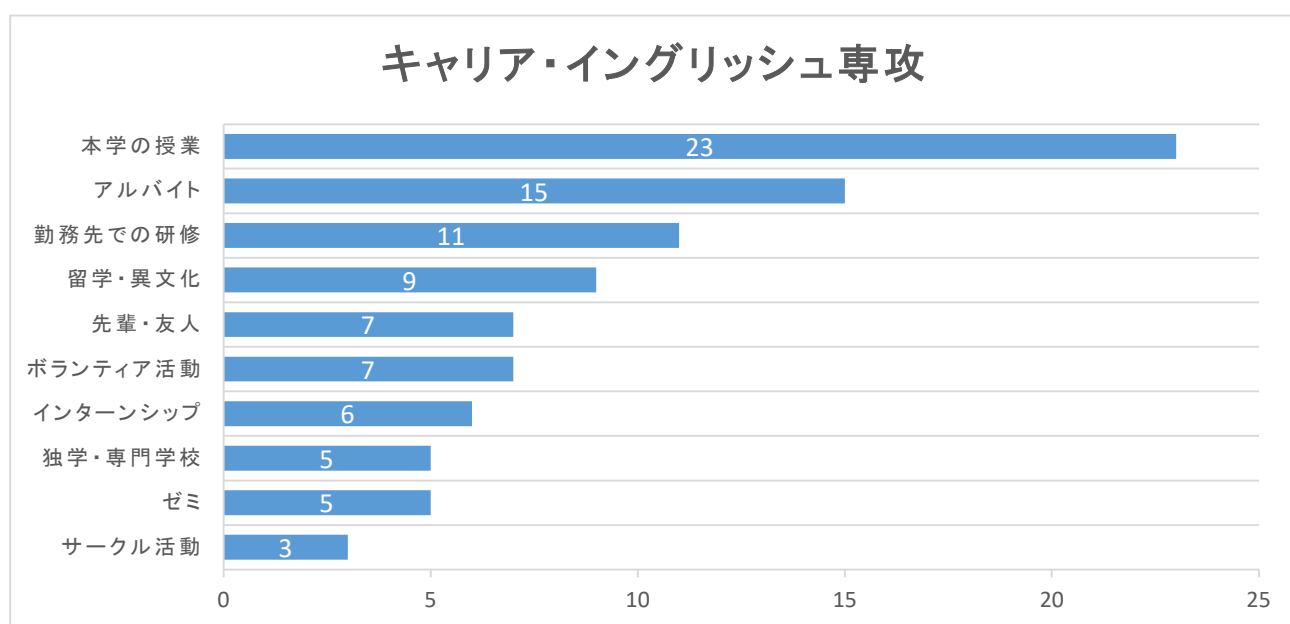
心理臨床学科 社会人基礎力



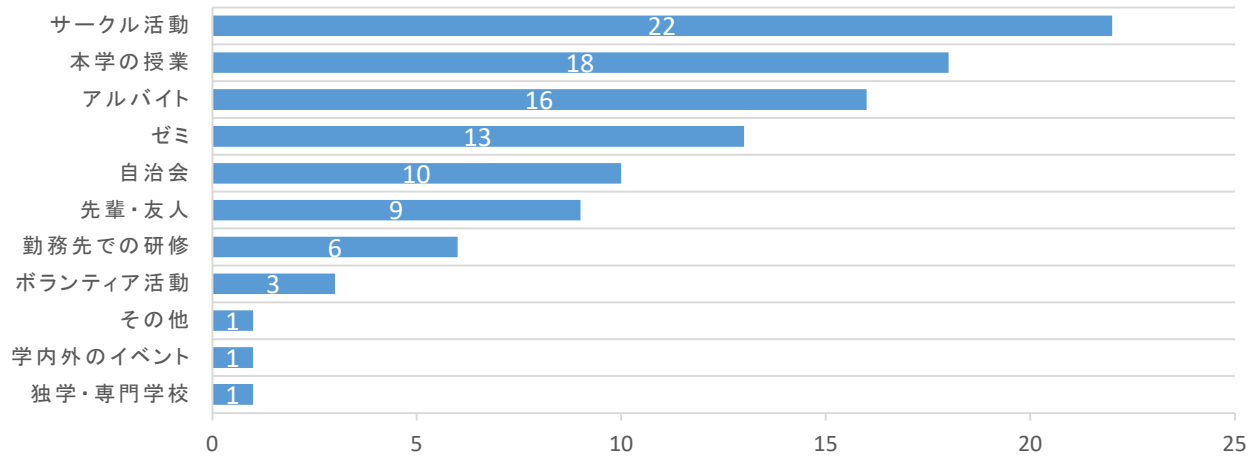
Q4-2 社会人基礎力を身に付けるのに何が役に立ったのか

- 1 本学の授業 2 ゼミ 3 インターンシップ 4 留学・異文化 5 ボランティア活動
 6 サークル活動 7 アルバイト 8 先輩・友人 9 自治会 10 独学・専門学校
 11 学内外のイベント 12 勤務先での研修 13 その他
 (複数回答可) 上位のみ記載

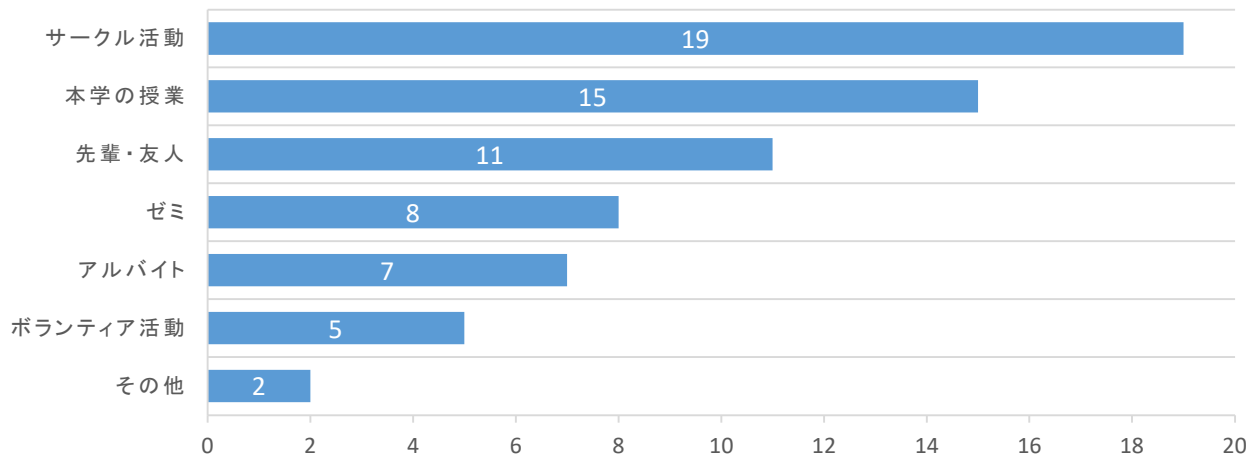
	CE	保育	児童	心理
(1) 主体性	1、4、5、7	6	6	5
(2) 働きかけ力	6、7	6	1、5、6、8、13	6
(3) 実行力	1、4、5、7	2	6	1、2、6
(4) 課題発見力	2	6	2	1
(5) 計画力	1	2、7	6	1
(6) 創造力	4	1、6、7	1	6
(7) 発信力	1	2	2	1
(8) 傾聴力	1	6	5、6、7	1
(9) 柔軟性	1	1	1、8	1
(10) 状況把握力	1、7	1、6、7	8	1
(11) 規律性	7	7	6、7	7
(12) ストレス耐性	12	8	8	1



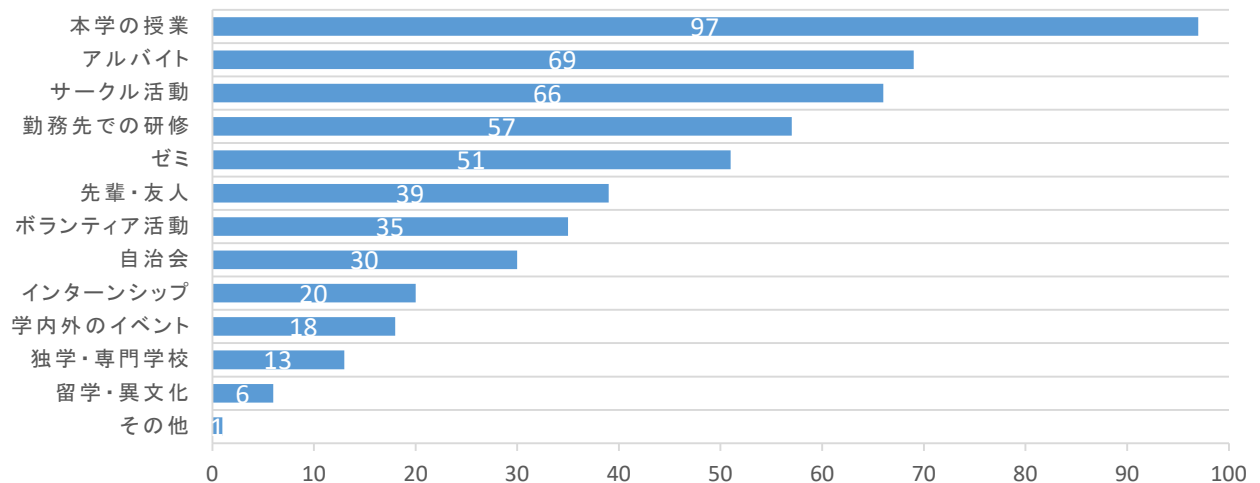
保育コース



児童教育コース



心理臨床学科



Q4-3 実社会で必要と思われる社会人基礎力を5つ書いてください

順位	CE	保育	児童	心理
1	(1) 主体性	(12) ストレス耐性	(1) 主体性	(3) 実行力
2	(4) 課題発見力	(1) 主体性	(5) 計画力	(1) 主体性
3	(7) 発信力	(8) 傾聴力	(3) 実行力	(12) ストレス耐性
4		(9) 柔軟性	(9) 柔軟性	(11) 規律性
5			(12) ストレス耐性	(9) 柔軟性

Q4-4 社会人基礎力以外で、大学時代に身に付けておけば良かったことや、在学生に身に付けて欲しい能力や資質をあげてください

キャリア・イングリッシュ専攻

- ・世界の民族、戦争、人権問題についての教養。たくさん本を読むこと。
- ・語学力の向上
- ・プラス思考に物事を考える力

保育コース

- ・正しい敬語の使い方（間違っって使いがちなもの等）
- ・コミュニケーション力は本当に大事だと思いました。目上の人とのコミュニケーション、自分の言葉遣いに悩むことが多いです。

児童教育コース

- ・臨機応変に対応すること、気持ちを切り替えること

- ・社会福祉士の免許取得コース
- ・相手の言葉（意見）を聞き入れる素直さ、謙虚さ、器の大きさ
- ・12の能力で充分だと思います。
- ・自分のやりたいことを見つけ、実行してみる。様々な経験が社会人になったときに活かされると思う。（失敗も成功も）
- ・様々な人との対話力、積極性ではないかと思います。社会に出れば様々な人との対応を求められるからです。
- ・大きな声で挨拶すること、分からないことを質問すること、毎日勉強する習慣
- ・自分をコントロールする力、自分を客観的に見る力
- ・(2) 働きかけ力と重複しますが、チームで取り組み、情報共有を欠かさないことが大切だと思います。そのため、どんな小さなことでも違和感があったら、周囲の先輩に相談するようにしています。
- ・社会人として必要なものは、積極性とコミュニケーション力だと思います。仕事に対して積極性やコミュニケーション力が身に付いていると、仕事で困った時でもすぐに誰かに相談できたり、円滑に業務に取り組むことができます。身につけてほしいものは検定をより多く取得しておくことで就職や社会人になってからも役立ちます。
- ・きちんとした敬語。職場にもよるかと思うが、敬語ができて損することは無いと思った。
- ・物事を継続する力。実習、ボランティア、サークルを積極的にしてほしい。
- ・社会人として身につけておいた方がよいものとして、柔軟性と他者に頼る力と感じます。また大学時代に本（特にビジネス書）は触れておいて損はないです。
- ・コミュニケーション能力
- ・国際交流
- ・推進力、挑戦的思考、マナーリテラシー、発信力、自己をアピールする力
- ・社会人として必要なのは、「謙虚な姿勢」だと思います。学生時代にどれだけのことを経験していても、社会に出てしまえば1からのスタートです。少しの自信は必要だと思いますが、教えていただくこと、気づくこと、知ること、全てにおいて「謙虚」が大切だと感じています。

Q5 仕事をする上での悩み、課題やそれを誰に相談していますか

キャリア・イングリッシュ専攻

- ・友人に相談
- ・人間関係、目標設定、到達度
- ・同期や先輩に相談しています
- ・職員が少ない支店に配属されているため、自分でできる仕事をより増やさないといけない。母親や1つ上の職場の先輩に相談。

保育コース

- ・ストレス解消法→同期と電話（大学の同級生）
- ・勤務状況や待遇について→大学時代の友人と話して他の職場の様子を知る。
- ・分からないことが多い、どう聞けばいいか分からないことも多いです。少しでも「？」と思うことがあると、こまめに聞くようには心がけています。一番相談しやすいと思うのはやはり同期です。
- ・気になる子や発達支援の必要な子どもへの対応が難しく集団の中でどう関わり、働きかけていくか、また個別の支援や働きかけについて悩んでいる友達に相談する。

児童教育コース

- ・仕事の進め方、仕事量の多さ→同じ学年分の先生や管理職に相談している。友達と話すことで自分だけが悩んでいるわけではないと思える。

心理臨床学科

- ・悩みは福利厚生。親、友人に相談
- ・特になし（専門学生）
- ・特に今悩みはありませんが、悩みがある時は職場の上司や友人に相談しています。
- ・自分の意見がない（言えない）、論理的思考が足りない→指導者に相談
- ・人間関係等に悩んだ時、職場の先輩や大学の友人、親に相談している。
- ・自分の先輩、家族
- ・自分の立場においてのふるまい等
- ・仕事に対するやり方等での悩みは山のようにありますが、その都度上司、先輩に確認しています。そこに相談できない場合は両親へ相談しています。
- ・他の社員の悪口を言う人がいる。社員数が減っている。係長などの幹部などに相談しています。
- ・経験の差による実力の差を感じ、自分を認められない。主に友人や可能な場合はたまに職場の先輩や上司に相談する。
- ・専門的知識（目標設定シート等）、担任に相談しています。
- ・私は任された業務を1人で抱え込んでしまうことがあります。チームの先生方に可能であれば手伝っていただいています。ベテランの先生方は経験が豊富なので、的確なアドバイスで課題解決に向けた提案をしてくださいます。
- ・人間関係（上司や友人に相談）
- ・家族、友人、先輩、上司に相談しています。
- ・医療機関で勤務していますが、いろんな職種の中で業務を行うため、それぞれの専門性を大切にしながら病棟をコントロールするので、大変なときがある。悩んだらすぐに上司へハウレンソウを心がけている。

Q6 大学時代に有意義だったと思う授業はありましたか

キャリア・イングリッシュ専攻

- ・アドバンスト・イングリッシュ・コミュニケーションでのプレゼンテーション。準備を含め、自分一人で発表まで終えるという作業は英語力だけではなく、様々な力を与えてくれました。
- ・たくさんありますが、大野先生の英文学概論は90分間で本当にたくさんの学びがあり、印象に残っています。
- ・アドバンスト・イングリッシュ・コミュニケーション→自らどうにかして英語で伝えようと必死に頑張っていたから。
- ・情報系の資格取得ができる授業全般。職場でもパソコンを使うことが多いので役立つ。目標設定をして取り組むことを学ぶことができる。

保育コース

- ・実戦形式の授業が今でも活かされていると思います。保育なので、ピアノや保育内容（表現）、音楽など他にオペレッタ等の行事もその経験が役立っています。
- ・特別支援の授業は有意義でした。自分の考え方も広がりました。保育の授業でも、1つの課題にみんなで行き届くもの、みんなとコミュニケーションが取れて良い経験でした。

児童教育コース

- ・教職関係の授業は全て今の仕事にいきている。糟谷先生の「教育心理学」の講義では、毎回絵本の読み聞かせがあり、特に印象に残っている。
- ・体験学修→学校現場等に行かせていただき、学ぶことが多くありました。

心理臨床学科

- ・三城先生の授業、ゼミ
- ・認知行動療法→自分の行動を振り返ってどうすれば更に良くできるか考えられるようになった。
- ・特別支援教育についての授業は今の仕事にも繋がっているため、有意義だったと思います。
- ・社会心理学、集団心理やコミュニケーションなど、社会に役立つことが多いから。
- ・大学の授業では様々な授業を受ける中で、物事を色々な視点から考えられるようになったり、多様性への理解ができるようになったと思う。
- ・インターンシップです。実際に職場に行き、見て体験することでしか分からないことが多々あるからです。
- ・有村先生の授業は社会人としての基礎を学びました。西先生の授業はとにかく楽しかったです。岩永先生の授業はPSWの心得を学びました。
- ・河田先生に感謝しています。
- ・試験的に自分や友人で心理検査を行い結果を分析したこと。履歴者が書きやすくなった。
- ・どの授業も貴重な学びでしたが、特に保護者対応に関する学習はとても役立っています。ロールプレイング等を通して、イメージを具体的に持てました。実際に保護者さんとお話しするときに大切なポイントをつかめたと思います。
- ・精神保健福祉士の養成課程、認定心理士、公認心理師、スクールソーシャルワーカー、情報処理の授業がとても有意義でした。大学で学んだ事を現場で活かすことができていることが理由です。

Q7 本学全般にわたってのご意見はありませんか

キャリア・イングリッシュ専攻

- ・もっと学生に厳しくてもいいかと思います。自分を含め当時のキャリアイングリッシュ専攻の生徒は主体性が足りなかったように思います。
- ・アルバイト優先となっていた学生時代を振り返るともっと勉強しておけばよかったという思いはありますが、当時金銭的に余裕のなかった家庭の実情を考えると仕方なかったと思います。どんな状況にある学生にも学びの機会が均等にあり、留学がもっと容易にできる教育が普及して欲しいと思います。

児童教育コース

- ・私はルーテル大学を卒業したことを誇りに思っています。児童教育コースでかけがえのない仲間や先生方に出会えたことは今でも私の糧になっています。特に、私にとってチャペル委員会での活動から学び得たものはとても多いです。人は代わっていてもルーテルの感恩奉仕の精神は在り続けるだろうと思います。

心理臨床学科

- ・在学中には色々なことを感じていましたが、今現在は覚えていません。しかし当時の自治会は仲の良い人やその人の所属するサークルを優遇しており、非常に公平性に欠けていました。またある意味、学内のリーダー的存在にあるにも関わらず、統率力のない目立ちたいだけのひとりよがりな集団だったと覚えています。特に学祭など段取りが悪く、悲しいくらいにやりづらかったです。
- ・いつも先生方は優しく学生に寄り添ってくださったので、大学生生活本当に楽しく過ごせました。職員の皆さんも優しく声をかけてくださいました。ルーテルで4年間過ごせたこと、本当に良かったと思います。お世話になりました。ありがとうございました。
- ・先生方が密接に関わってくださったことが、とてもありがたいと今とても思います。
- ・就職を考えている人がほとんどだと思うので、もう少し意識を高めることを行ってもらいたいと思います。他大学生との意識の差を感じる部分があったからです。
- ・人との出会いの大切さを学びました。
- ・私が現在の仕事を楽しくできているのは、感恩奉仕の精神を大学るときに身につけることができたからだだと思います。これからもこの理念を意識して、共生力を高めていこうと思います。ありがとうございました。
- ・4年間大変お世話になりました。学生生活を振り返ると、大学での学びが一番充実していて、貴重な時間だったと思います。パソコンが全く分からなかったり、国家資格も取得できるか不安なまま入学しましたが、パソコンも1級まで取得でき、国家資格取得も就職もできたのは、ルーテルでの4年間があったからだだと思います。この4年間の学びを活かして、今後も社会人として頑張りたいと思います。
- ・一人一人の学生と親身になって話をしてくれたり、本や論文を紹介してもらったりなど、とても過ごしやすい環境にありました。2、3年生あたりからもう少し現職の先輩方の話を聞けたら、もっとモチベーションが上がっていたのかなと今になって思います。
- ・このアンケート資料のご準備等、ご苦労様です。コロナウイルスで大変な時期ですが、学生、職員の皆様もお体に気を付けて、元の生活が戻りますようお願いいたします。

* 卒業生アンケートに対する各学科、専攻からの所感

キャリア・イングリッシュ専攻

アンケートの回収率が低めなのが気になりました。分析データとしては少ない気がしますが、Webでの実施へ移行するとのことで、これまで以上にアンケートの回収率が高まればと思います。回収された内容については、2019年・2020年ともにキャリア・イングリッシュ専攻の学生は「情報活用能力」が一番低く出ています。2019→2020 になって若干上がってはいますが、この結果を踏まえると、文系でビジネス系に就職する学生のために、情報活用能力を高める科目の更なる充実が必要かもしれません。その一方で、「英語力」「多様性の理解」といった項目は高く、キャリア・イングリッシュ専攻での学びが成果として表れています。また、社会人の基礎力に関して最も役に立ったのがアルバイトという回答については、経済的にアルバイトと学習の時間のバランス等注意を払うべき結果かもしれません。

保育コース

卒業生が、全体として高い意欲と意識を持って働いていることをうれしく思います。離職率については、2018年の厚労省の保育士離職率水準を参考にしても、8%（実数1名）とたいへん低く、大学での学びが活かされ、長く健康に働ける環境が整いつつあることを想像します。一方で「大学で学ばなかった内容」について、手遊びや歌などの「見える技術」が挙げられていることに、保育現場の課題を感じました。つまり、大学では、目に見えない力（子どもの非認知能力の理解、保育の倫理観、子どもの権利等）を重要な学びの一部としています。それらが軽視され、使える技術を学ぶことのみを期待され重視される狭間で卒業生が苦しんでいるのであれば、リカレント教育などの研修会が必要だと考えました。今後も、保育コース一丸となり、学生の卒業後をも見据えた実践教育を実施したいと思っています。

児童教育コース

全体的に高評価項目に関しては4年間の実践的なカリキュラムを通して学びを深めてきたことが活かされていることが伺われますが、低評価項目「コミュニケーション能力」（4.00→3.50）、「ストレス耐性」（4.00→3.25）に関して今後留意する必要があると考えます。コロナ禍で様々な対応が次々と求められる小学校教育現場においても教師自身のストレス緩和が一層課題となることが予想されます。今後も在籍時にストレス・マネジメント教育やセルフ・ケアに関する講義等も実施し、レジリエンスを高める方法を継続して注力する必要があることが読み取れました。また、社会人基礎力を身に付けるのに役に立った項目に関しては他の専攻コースには見られない「先輩・友人」の記載があり、コースの学年を越えた交流が有益だったことも伺われました。

心理臨床学科

卒業生アンケートの集計結果を頂き、大学の学びが今どのように影響しているのかを興味深く拝見しました。回答率については次年度よりWebによる調査への移行予定ということで、改善するだろうと期待します。

さて、全体として多くの学生が、本学の授業が社会人基礎力を身に付けるのに役立ったとしています。「共生力」について特に高い評価となっており、「感恩奉仕」の精神がここに反映していると感じました。心理臨床学科の学生は「傾聴力」「柔軟性」が高く、他者との協力・連携の力が身についたとしています。まさに、心理臨床学科が目指す他者理解のできる人材育成の効果が出ているようです。一方で社会人として求められる「実行力」や「主体性」の評価は低く、これらを引き出す教育が今後の私たちの課題になると思いました。

